



# 環境報告書2016

## ホシザキ電機株式会社

●本報告書に関するお問い合わせは、下記担当部署までお願いいたします。  
発行：ホシザキ電機株式会社  
担当部署：総務部総務課環境係  
所在地：〒470-1194 愛知県豊明市栄町南館3番の16  
TEL: 0562-96-1130  
FAX: 0562-97-5104  
URL: <http://www.hoshizaki.co.jp/>  
発行年月：2016年3月



ホシザキ電機株式会社

## CONTENTS

- P01 編集方針
- P02 トップメッセージ
- P03 ホシザキグループの概要
- P05 ホシザキグループの経営理念と  
社会・環境活動
- P07 特集1 フロン排出抑制への取組み
- P09 特集2 多様化する「食」に対する  
ニーズの変化に対応した取組み
- P11 TOPICS
- P13 ホシザキグリーン財団の  
自然環境保護活動
- P15 環境目標と実績、マテリアルフロー
- P17 環境報告

### 編集方針

本報告書は、ホシザキ電機株式会社における環境・社会活動の年次報告書としてステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションの推進を図ることを目的に発行しています。

#### ●参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

#### ●対象範囲

ホシザキ電機株式会社と一部グループ会社の取組みを対象としています。ただし、環境報告のデータはホシザキ電機単体のデータです。

#### ●対象期間

2015年1月1日～2015年12月31日

#### ●発行

2016年3月

### トップメッセージ

## ホシザキグループは 環境問題への取組みを継続し 社会貢献を果たします

2015年12月に開催された気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)での「パリ協定」では、2020年以降の新たな温暖化対策について、全ての国がCO<sub>2</sub>排出削減目標を持つことに合意しました。これにより、環境問題への取組みは、新たな段階を迎え「気温上昇を産業革命前よりも1.5℃以内に抑える」という目標を達成するために、従来の枠組みを超えた、気候変動対策がスタートいたします。

このような中、当社グループでは、環境問題への継続的取組みを、企業の社会的責任として捉え、ノンフロンや省エネなどの環境配慮型製品を供給するなど、事業を通じた環境対応を推進しています。

この度の環境報告書2016年度版では、海外におけるノンフロン機器の開発や日本におけるフロン排出抑制への取組みについて報告しています。今後も、これまで培ってきた技術を活かし、より環境

に配慮した製品開発やフロン排出抑制につとめてまいります。

このほか、多様化する食に対するニーズの変化に対応した、新調理システム「ニュークックチル」の病院での導入事例や、六次産業化支援への取組み、日本食文化の普及支援など、環境への取組みのみならず、社会貢献に関する事業の取組みについても紹介しています。

2017年に当社は創業70年の節目を迎えます。当社グループは、これからも時代に先駆けた環境配慮型製品の供給を通じた社会貢献を継続し、皆さまから信頼される企業グループであるべく、企業の社会的責任を果たしてまいります。ステークホルダーの皆さまには、ぜひ本報告書をご覧ください。忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

ホシザキ電機株式会社  
代表取締役会長兼社長

坂本 精志

# フードサービス機器を活用した トータルサポートにより 世界中の食環境の向上に貢献しています

ホシザキグループは、フードサービス機器の開発、製造、販売及び保守サービスを行っています。これらの事業を通じ、世界中の食環境の向上に貢献するとともに、環境への取組みもまた私たちの重要な課題として捉えています。

環境性、省エネ性に優れた環境配慮型製品の開発、お客さまへの省エネ・省力化のご提案、メンテナンスなどを通して、これからもグループ一丸となって社会に貢献してまいります。

## ホシザキが提供する製品

全自動製氷機や業務用冷凍冷蔵庫といった冷凍冷蔵機器のみならず、スチームコンベクションオープンや電解水生成装置など、「食」のシーンをサポートする製品を幅広く揃えています。

### 【主な製品の例】



全自動製氷機



業務用冷凍冷蔵庫



食器洗浄機



スチームコンベクションオープン



電解水生成装置



再加熱カート

### 会社概要

商号 ホシザキ電機株式会社  
 設立 1947年(昭和22年)2月5日  
 資本金 7,993百万円(2015年12月期)  
 売上高 260,174百万円(2015年12月期、連結)

代表者 代表取締役会長兼社長 坂本精志  
 本店所在地 〒470-1194 愛知県豊明市栄町南館3番の16  
 従業員数 12,634名(2015年12月期、連結)

## グローバルネットワーク

ホシザキのグローバルネットワークを通じて、米州、欧州を中心に、各国、各地域への製品供給を展開しております。近年はアジアを中心とする新興国で製造・販売拠点を確立し、世界に活躍のフィールドを広げています。



2015年12月末現在、ホシザキ電機の連結子会社は、国内17社、海外39社、計56社です。上記の地図は主要な会社を表示しています。

## 国内ネットワーク

15販社体制のもと、全国438カ所(2015年12月末現在)の営業所展開による、きめ細やかな販売・アフターサービスのネットワークを確立しています。また、サプライ事業などのソフトビジネスにも力を入れています。



ホシザキグループでは、創業以来、

- ◎オリジナル製品を持たない企業に飛躍はない
- ◎モノづくりには極限への挑戦を忘れてはならない
- ◎良い製品は良い環境から
- ◎海外との仕事には共存共栄の精神が大切である

をモットーに、以下の経営理念を掲げています。

### 経営理念

#### 存在意義

私たちホシザキグループは、多様化する「食」に対するニーズの変化に対応し、お客さまのみならず社会に貢献できる「進化する企業」であることを目指します。これを満たすため、独自の技術に基づくオリジナル製品を創造し、より快適でより効率的な食環境へ向けての新たな提案と迅速かつ高品質なサービスを提供します。

#### 経営姿勢

遵法はもとより社会と社員から信頼される会社づくり

透明性のある経営議論のできる経営の実践

事業活動と環境との調和働きやすい職場環境の実現

## 良い製品は良い環境から

#### 行動規範

### 仲良く楽しく

自らの責務を全うし仲良く楽しく仕事ができるよう実現しよう

### 極限への挑戦

現状を打破し失敗を恐れず常に新しいものを創造していく姿勢を大切にしよう

### 顧客満足の創出

常に顧客の立場にたって考えよう

## ホシザキグループの社会・環境活動

経営理念のもと、ホシザキグループの社会・環境活動基本方針、ISO14001環境方針を掲げ、社会・環境活動に取り組んでいます。

### 社会・環境活動基本方針

ホシザキグループは、パートナーの協力を得ながら、以下の方針に基づいた社会・環境活動を推進します。

1. 安全・安心かつ豊かな食環境の整備に尽力します。
2. 環境性・省エネ性に優れたモノづくりに挑戦し続けます。
3. 地域社会との対話・交流を推進します。
4. 法令遵守と適時適正な情報開示を推進します。
5. 野生動植物の保護繁殖に関する自然環境保護活動を応援します。

### ISO14001環境方針

ホシザキ電機株式会社は、当社経営理念である「良い製品は良い環境から」のもと、緑豊かな工場環境の整備につとめるとともに、地球レベルでの環境保全が人類共通の最優先課題の一つであることを認識し、環境と調和した持続的発展が可能な事業活動を目指します。

- 1 当社は、製氷機、冷蔵庫、食器洗浄機、生ビールディスペンサーをはじめとするフードサービス機器の開発、製造を行うメーカーとして、その事業活動にかかわる環境への影響を認識するとともに、これの継続的な改善に取り組む体制を整備し、汚染の予防につとめます。
- 2 当社の環境側面に適用可能な法的要求事項ならびに当社が同意するその他の要求事項の順守はもとより、自主管理基準を設定し、環境管理レベルの向上につとめます。
- 3 当社の事業活動にともなう環境影響のうち、特に次の事項を重点課題として取り組みます。
  - エネルギー原単位の低減
  - 化学物質の使用削減による環境負荷の低減
  - 省資源化の推進、廃棄物の発生抑制
  - 環境に配慮した製品の開発・設計の推進
  - 輸送に係る環境負荷の低減
  - 自然環境の保護
- 4 この方針遂行のため、技術的、経済的に可能な範囲での環境目的、目標を設定、推進し、定期的にこれを見直します。

この方針は、文書化し、実行し、維持するとともに、教育、広報活動を通じ、当社社員のみならず、当社組織のもとで当社の業務に従事する全ての人員に周知させます。また、社外のあらゆる人々からの要求に対して公開します。

2015年1月5日 常務取締役 本郷 正己

# フロン排出抑制への取組み

業務用冷凍冷蔵庫をはじめとする当社の製品には、CFC（クロロフルオロカーボン）、HCFC（ハイドロクロロフルオロカーボン）、HFC（ハイドロフルオロカーボン）など、通称フロン類と呼ばれる冷媒を使用してきました。しかし、フロン類には、オゾン層の破壊、地球温暖化への影響があり、より影響の少ないフロン類や他の物質への代替を進めています。

これまでに、CFC、HCFCの代替として、主にHFC（代替フロン）への転換を進めてきましたが、HFCはオゾン層には影響を及ぼさないものの、温室効果があることから、地球温暖化防止の観点より、ノンフロン化や低GWP化<sup>(注1)</sup>を推進しています。

また、日本国内における「フロン排出抑制法」の施行にともない、お客さまへのサポートもより強化しています。

注1：低GWP化とは、地球温暖化係数（GWP）の低いものを採用することです。地球温暖化係数は、CO<sub>2</sub>を基準に、温室効果ガスがどのくらい温暖化する能力があるかを表した数字です。



## 代表的な冷媒の種類と地球温暖化係数例

	特定フロン	代替フロン	ノンフロン
冷媒の種類	CFC-12	HFC-134a	CO <sub>2</sub>
地球温暖化係数(GWP)	10,900	1,430	1

## ノンフロン機器の開発

ヨーロッパでは、2022年に代替フロン冷媒を使用する機器の販売が禁止されるなど、世界各国においてノンフロン化への要請が強まってきました。ホシザキグループでは、これに先立ちノンフロン機器の開発に取り組んでいます。

使用冷媒 **R-290 (プロパン)**

地球温暖化係数(GWP) **3**



ノンフロン製氷機  
2009年より販売<sup>(注2)</sup>



イギリス

製造拠点 **HOSHIZAKI EUROPE LTD.**

使用冷媒 **CO<sub>2</sub>**

地球温暖化係数(GWP) **1**



CO<sub>2</sub>冷媒ショーケース  
2012年より販売



インド

製造拠点 **WESTERN REFRIGERATION PVT. LTD.**

使用冷媒 **CO<sub>2</sub>**

地球温暖化係数(GWP) **1**



CO<sub>2</sub>冷媒ディスペンサー  
2016年より販売



アメリカ

製造拠点 **LANCER CORPORATION**

注2：製氷機のノンフロン化は2009年から取り組んでいます。ただし、写真の製品は2015年より販売を開始したモデルです。

## フロン排出抑制法対応のサポート

「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）」が2015年4月より施行されました。この法律は、オゾン層破壊や地球温暖化の原因のひとつであるフロン類（CFC、HCFC、HFC）の排出抑制を目的とし、業務用の空調機器または冷凍冷蔵庫の所有者などには、点検や漏えい防止、算定漏えい量の報告などの管理が義務付けられました。

ホシザキグループでは、フロン排出抑制法のポイントをお客さまに説明するとともに、自社製品のみならず他社製品や空調機器の簡易点検、定期点検などのサポートを通じてフロン排出抑制に取り組んでいます。

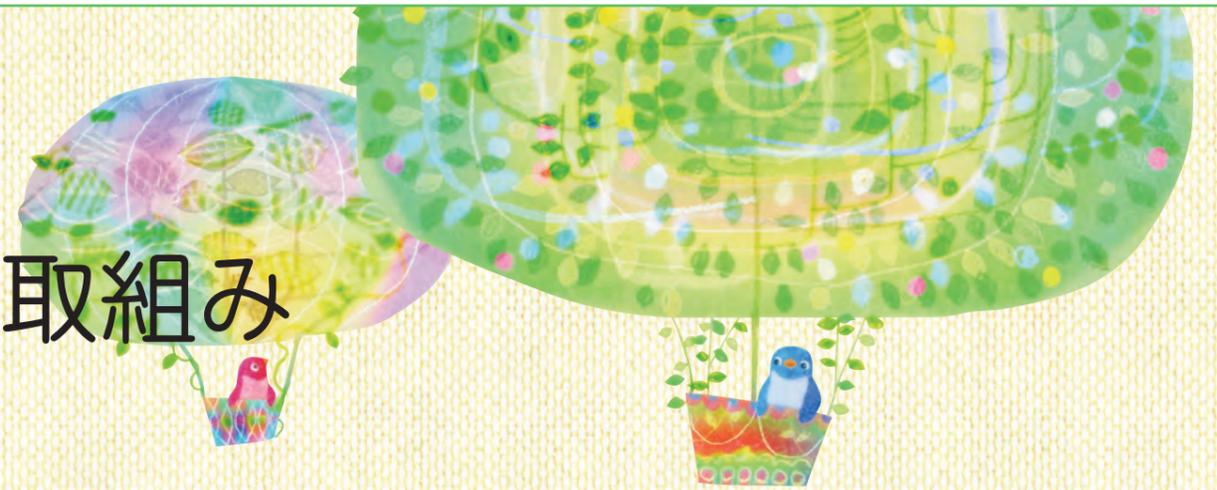
項目	内容	結果	CO <sub>2</sub> 削減	点検方法
1	運転電圧値	Y		計測測定
2	運転電流値	A		計測測定
3	運転電圧変動	Y		計測測定
4	運転電流変動	A		計測測定
5	運転電圧変動	Y		計測測定
6	運転電流変動	A		計測測定
7	運転電圧変動	Y		計測測定
8	運転電流変動	A		計測測定
9	運転電圧変動	Y		計測測定
10	運転電流変動	A		計測測定
11	運転電圧変動	Y		計測測定
12	運転電流変動	A		計測測定
13	運転電圧変動	Y		計測測定
14	運転電流変動	A		計測測定
15	運転電圧変動	Y		計測測定
16	運転電流変動	A		計測測定
17	運転電圧変動	Y		計測測定
18	運転電流変動	A		計測測定
19	運転電圧変動	Y		計測測定
20	運転電流変動	A		計測測定
21	運転電圧変動	Y		計測測定
22	運転電流変動	A		計測測定
23	運転電圧変動	Y		計測測定
24	運転電流変動	A		計測測定
25	運転電圧変動	Y		計測測定
26	運転電流変動	A		計測測定

点検表



サービスマンによる点検作業

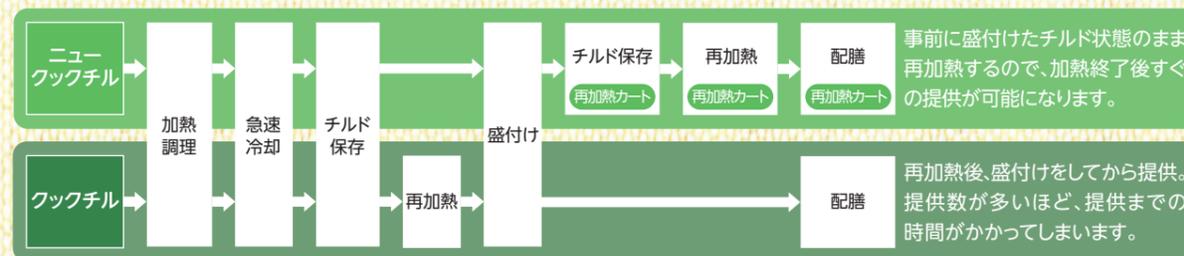
# 多様化する「食」に対するニーズの変化に対応した取組み



ホシザキグループは、多様化する「食」に対するニーズの変化に対応し、より快適でより効率的な食環境へ向けての新たな提案と迅速かつ高品質なサービスを提供しています。その取組み事例の一部をご紹介します。

## 新調理システム「ニュークックチル」の取組み

ニュークックチルは、大量調理において計画生産を行うための新調理システムの一つです。作業負担を減らしながら、食事をより衛生的に適温で提供することができるようになります。ホシザキグループは、食の安全性確保と調理の効率化を目指すお客さまに、製品を通じて貢献しています。



ニュークックチルのメリット

- HACCP (注1) に準拠した温度管理
- 適温提供を実現
- 早朝出勤の負担軽減 (朝食の準備が前日に可能)
- 提供前の人員を最小限化 (事前に盛付けが可能)

(注1) HACCPとは、食品の安全衛生を確認する衛生管理システムのことです。

### 取組み事例

藤田保健衛生大学病院様(愛知県豊明市)では、国内初、入院患者の症状に合わせた病院食を提供できるシステムを開発されました。

このシステムには、当社の再加熱カートが採用されています。

同大学病院様と共同開発した独自のプログラムを搭載し、より味の劣化を抑え、出来立ての状態で食事を提供することを可能としました。



藤田保健衛生大学病院様



再加熱カート(使用イメージ)

## 六次産業化支援の取組み

農林水産省では、雇用と所得を確保し、若者や子どもが地域に定着できる社会を構築するため、農林漁業生産(一次産業)と加工(二次産業)・販売(三次産業)の一体化や、地域資源を活用し新たな産業の創出を促進するなど、農林漁業の六次産業化を推進しています。

ホシザキグループでは、地元の食材を活用したメニュー開発や、加工場、店舗づくりのお手伝いなどを通じて六次産業化に取組むお客さまを積極的に支援しています。

- 行政と連携した六次産業化支援セミナーの開催
- 衛生管理講習会の開催
- 六次産業化支援の取組み事例
- 地元の食材を生かしたオリジナルメニューの提案
- 調理の実演指導
- 作業動線を考慮した厨房設計

## NPO法人プラス・エデュケート **工場見学**

豊明市にあるNPO法人プラス・エデュケートでは、定住外国人の方が地域とともに暮らしていくため、豊明市と協力して日本語支援の必要な外国人の児童生徒の学習・就学支援などが行われています。

そのような中、ホシザキ電機は、地域企業として、プラス・エデュケートに通う外国人の児童生徒の工場見学を受け入れました。

工場見学では、実際に製品が一から作られる作業現場を見ていただいたり、社員との交流を通じて、自身の「将来の仕事」や「働くこと」について考える機会を提供することができました。

今後も社会貢献を通じて、地域とのより良い関係を構築してまいります。



社員食堂でランチ



正門前で記念写真

2015年4月  
全国初

## ホシザキ東北 **プラチナくるみん** 認定

ホシザキグループでは、「仕事と生活との調和(ワークライフバランス)」に向けた取組みを強化する中、この度グループ会社のホシザキ東北が、2015年4月に全国で初めて「プラチナくるみん認定」を取得しました。

今後も引き続き、グループ一丸となって、社員のワークライフバランスを図り、社員が十分に能力を発揮することができるような働きやすい職場の整備を進めてまいります。



宮城労働局での表彰風景



※「プラチナくるみん」とは

次世代育成支援対策推進法に基づいて、子育てサポート企業として「くるみん」認定を受けた企業のうち、更に高い水準で継続的に取組んでいる企業に対して、厚生労働大臣が認定する制度です。

## ミラノ万博 日本の食文化 **普及を支援**

ホシザキグループは、農林水産省の要請を受け、イタリア・ミラノで開催されたミラノ万博(2015年5月~10月開催)の「日本館」に協賛をいたしました。

この万博は、世界の食の紹介を通じて、気候変動で変わる自然環境や伝統を知り、食料廃棄問題や持続可能な食料調達などを取り上げ、未来の地球のための各国の活動を伝えることを目的としています。

「日本館」のフードコートでは、食材を無駄なく使いロスを抑え、料理素材の持ち味を引き出すため、出汁や調味料に工夫をこらし、美味しい日本食が提供されました。その魅力は余すことなく紹介され、「日本館」は気軽に日本食を味わっていただけるスペースとして、開催期間中約228万人の来館者が訪れる大変な賑わいとなりました。

日本館の厨房は、ホシザキ電機が設計し、使用機器は日本国内で生産された自社製品だけでなく、ヨーロッパ、中国で生産されたグループ企業の製品も使用しています。ホシザキグループは、フードサービス機器の提供を通じて日本の「食文化」を世界に広げる活動を支援しています。



日本館の外観



日本館内に設けられたフードコート



日本国内及び中国で生産したテーブル形冷蔵庫など



ヨーロッパにあるグループ会社GRAM COMMERCIAL A/S製の冷蔵庫とHOSHIZAKI EUROPE LTD.製の製氷機

# ホシザキグリーン財団の自然環境保護活動

## 公益財団法人ホシザキグリーン財団

ホシザキグリーン財団は、人と自然の調和した自然環境の保全に寄与することを目的として掲げ、野生動物の保護繁殖などに取り組んでいます。

ホシザキ電機は、生物多様性の保全活動の一環として、また、日本のふるさとを継承するためにも、ホシザキグリーン財団の活動を応援しています。

### 〔穴道湖グリーンパーク〕

日本有数の水鳥の飛来地である穴道湖の西岸にある自然観察施設です。園内の野鳥観察舎では身近に野鳥観察を楽しむことができ、近年は毎年4万人を超える方が来園され、自然と触れ合う場として親しまれています。

また、野鳥をはじめ、野生動物が生息しやすい環境作りにも力を入れています。



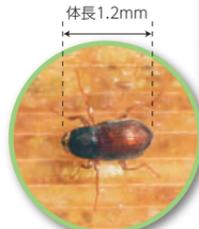
野鳥観察舎内



穴道湖の沿岸で越冬する水鳥



カワセミの繁殖場所として人工営巣壁を設置  
当社社員も防壁の補修に協力



ホシザキ野生生物研究所の  
研究員が、島根県隠岐の調査で  
新種のヒメドロムシを発見し、  
2015年に発表しました。



研究報告会

### 〔ふるさと尺の内公園〕

島根県雲南市にある多自然型公園です。野鳥、昆虫、草花など身近な自然と触れ合うことができる場所で、野鳥観察や昆虫観察などの自然観察会なども園内で行っています。

地域の方にもご愛用をいただき、憩いの場として、また親子で楽しみながら自然と触れ合う場所として利用されています。



ホシザキ電機とグリーン財団で合同企画した  
親子交流のイベントで自然と触れ合う子どもたち



地域の方にもご愛用いただいている公園内の東屋

### 〔穴道湖自然館ゴビウス〕

汽水と淡水をメインテーマとした島根県立の水族館であり、ホシザキグリーン財団が指定管理者として運営しています。穴道湖・中海や島根県の河川の生きもののおよそ200種類10,000点を展示しています。

子どもから大人まで幅広い世代の方から支持され、生きものに接することで命の大切さや自然の素晴らしさを再認識できる場となっています。



生きものと触れ合うことができるタッチプール



希少生物のニホンイトヨ

### 〔ホシザキ野生生物研究所〕

穴道湖グリーンパーク内にある研究所で、島根県内に生息する野生動物の調査研究を行っています。

研究の成果は、財団で発行する研究報告書などへ掲載するほか、一般の方を対象とした研究報告会などで発表します。

また、得られた知見は運営する施設で行う観察会などといった企画やニュースター・ホームページを通じて自然の大切さを伝えるとともに、生きものの生息環境の整備などに生かされています。

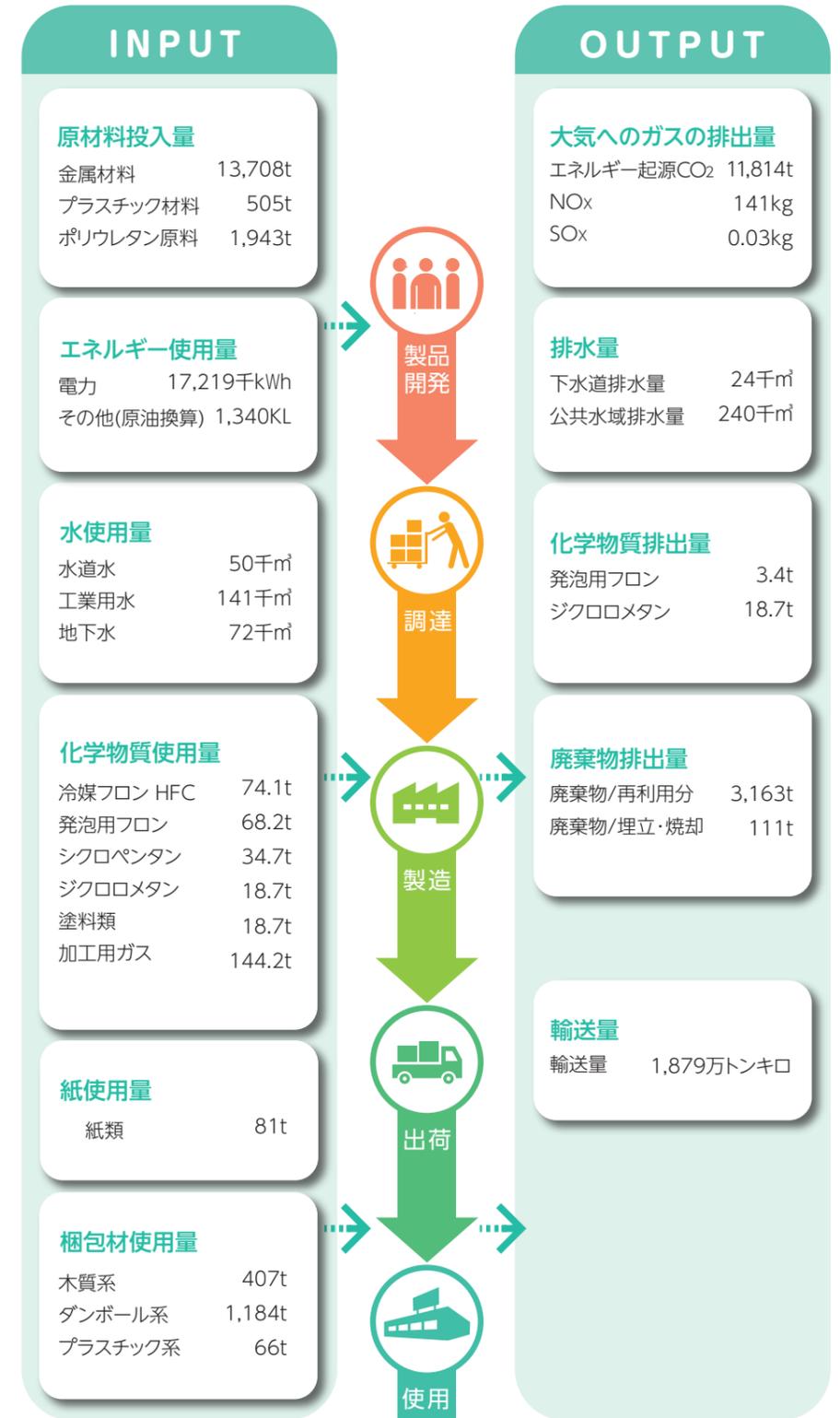
こうした活動を通じて島根県内に生息する野生動物の保護や生息環境の保全に寄与しています。

# 環境目標と実績

# マテリアルフロー

○…達成 ▲…一部未達成 ✕…未達成

	2015年度目標	実績	コメント	2016年度目標
省エネルギー	エネルギー消費原単位 2012年度比 3%低減	○	LED照明化、高効率エアコン・高効率コンプレッサへの更新、屋上遮熱塗装などさまざまな活動を積み重ね、全ての部門で目標を達成しました。	エネルギー消費原単位 2013年度比 3%低減
廃棄物の発生抑制	金属作業屑の歩留り率 2008年度比 4~5.1ポイント向上 2012年度比 0.64ポイント向上 2013年度比 1ポイント向上 2014年度比 0.1ポイント向上 (部門毎に目標値を設定)	○	各部門で目標値及び目標を達成するための施策を掲げ、生産性向上活動とあわせて活動を進め、全ての部門で目標を達成しました。	金属作業屑の歩留り率 部門毎、工程毎に 目標値を設定
	プラスチック材料作業屑の歩留り率 2008年度比 3~7ポイント向上 (部門毎に目標値を設定)	○	生産性向上活動とあわせて各部門で施策を掲げて取組み、全ての部門で目標を達成しました。	プラスチック材料作業屑の歩留り率 部門毎に目標値を設定
	廃製品の発生抑制 部門別、発生工程別、発生原因別に 目標値を設定	▲	各部門で目標値及び目標を達成するための施策を掲げて改善を進めてきましたが、一部の部門で設備導入や材料変更による不具合発生などで目標未達成となりました。	廃製品の発生抑制 部門別、発生工程別、 発生原因別に目標値を設定
製品梱包の省資源	木枠下台レス化の推進	○	設定した目標を達成しました。	-
輸送時の負荷低減	積載率の向上 2012年度比 0.5%向上	○	製品輸送トラックの積載率目標値を掲げて取組み、目標を達成しました。	積載率の向上 2012年度比 1%向上
	輸送量算出の精度を上げるよう 把握方法の検討、確立	▲	一部の部門で目標未達成となりました。	新たな手順での 輸送量算出開始
フロン	発泡用フロンの削減に向けた 代替発泡剤による生産技術の確立、 低GWP冷媒化に向けた方向性決定	○	設定した目標を達成しました。	プレハブパネルの 生産方法検討 低GWP冷媒化に向けて開発
製品開発	トップランナー対応に向けた 情報収集とプレハブ庫などの 更なる省エネ化	○	一部製品へLED照明を採用するなど、設定した目標を達成しました。	トップランナー対応製品の モデルチェンジなどを 目標に設定
自然環境の保護	ホシザキグリーン財団の行う 保護活動への協力と参加	○	ホシザキグリーン財団の行う保護活動へ 参加協力しました。	ホシザキグリーン財団の行う 保護活動への協力と参加



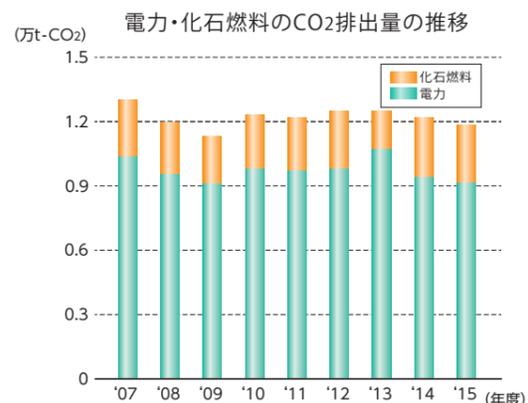
環境目標と実績  
マテリアルフロー

## 環境報告1 地球温暖化の防止

ホシザキ電機では、事業にともない排出するエネルギー起源のCO<sub>2</sub>を削減するために、空調機器の更新、LED照明への更新、設備の更新、生産性の向上などを行いました。

その結果、2015年度のCO<sub>2</sub>排出量は11,814tで、前年比96.9%となりました。

引き続き省エネ活動を推進し、CO<sub>2</sub>排出削減につとめてまいります。



### 空調更新によるCO<sub>2</sub>排出量削減

本社工場の機械工場では、年間89tのCO<sub>2</sub>排出量削減を見込み空調の更新を行いました。ガス吸収式エアコンからインバータ搭載のガスヒートポンプエアコン(GHP)へ変更することにより、冷暖房の立ち上がりが早くなり、暖気運転時間が大幅に短縮されました。

更に、天井には冷暖気を効率的に循環させるためにシーリングファンを設置しました。空気を循環させることにより、天井が高く広い空間でも作業域の温度ムラを抑え快適な作業空間となり、過剰な温度設定も不要となりました。

また更新にともない、作業エリア毎に運転設定ができるようシステムを組み換え、特に残業時間帯には、稼働エリアのみを運転することで、エネルギー使用量を削減しています。

中工場では、空調負荷の低減に取り組みました。従来より夏場の空調負荷削減としてロールカーテンを用いた西日対策を実施していましたが、更に南側・西側の窓に遮光フィルム(日射反射率57.5%、日射透過率12.1%)を貼り、屋上には遮熱塗装(日射反射率75%)を施し、外からの熱の侵入による温度上昇を防ぐよう改善しました。

このような最新機器の導入と、運用方法の見直しなどさまざまな工夫により、工場部門ではCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。



ガスヒートポンプエアコン室外機



シーリングファン



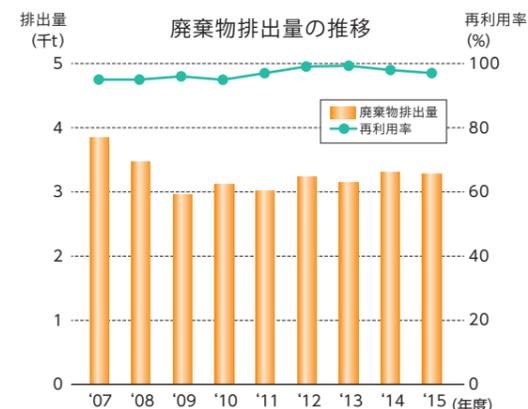
遮熱塗装

## 環境報告2 廃棄物の発生抑制

ホシザキ電機は、かねてから3R<sup>(注1)</sup>活動を推進しており、2015年度の再利用率は96.6%となりました。

2015年度は主に廃棄物の発生抑制に重点をおいて活動を行い、総排出量3,274tで、前年度比99.2%となりました。引き続き、歩留り率向上を中心とした廃棄物の発生抑制の活動を進めてまいります。

(注1) 3Rとは、Reduce (リデュース)、Reuse (リユース)、Recycle (リサイクル)の頭文字をとった廃棄物を削減するためのキーワードです



### 金属材料の製品歩留り率向上

島根工場では、プレハブ冷蔵庫用のプレハブパネルの発泡装置を2014年度に更新し、2015年には運転を効率よく行うことで、生産性を30%向上させました。

そのプレハブパネルに使用するスケッチ材には、業者からの納入品と社内のロール成形機で加工しているものがあります。スケッチ材の特長は、定尺材に比べ部材の必要寸法に合わせた幅に加工後に納品されるため、加工現場で発生する端材が少なくなることです。

島根工場では、このスケッチ材の歩留り率と作業性を更に向上させるため、ロール成形機のオペレーションを変更しました。従来はロール成形機へ都度手入力していた加工データを計画的に事前入力できるようにし、後工程のパネル積載ロボットを更新し、引出式スケッチ材収納棚を設置することができました。

これにより、ターレットパンチプレス(コンピュータ制御で板材を穴あけから曲げ加工まで行う機械)へ供給するスケッチ材の種類と加工量を増やし、歩留り率が材料加工枚数換算で13%向上しました。

島根工場では生産性の向上のみならず、廃棄物の発生抑制にもつとめています。

